

2011年度の放射線検査室のスタッフは、新入職者1名が加わり診療放射線技師5名（4月は4名）であった。主な業務は一般撮影、造影透視、CT、MRI、骨密度測定、乳房撮影で、新たに健診事業へ参画した。

また健康フェスタや、地域住民を対象とした出前健康講座へも積極的に参加した。

1. 医療機能評価受審

2012年2月1日から3日までの日程で、医療機能評価 Ver 6の訪問審査が行われた。

前回の受審から5年が経過している。その間電子カルテの導入やフィルムレス運用の開始などに伴う業務マニュアル類や環境の整備が、必ずしも適切な状態とは言えなかった。

予想通り、5名という少人数での受審への道のりは険しかった。

まだ認定更新は決まっていないが、当放射線科検査室に関しては、大きな指摘事項はなく、努力が実ったと実感している。

また、今回の受審を機に不備な箇所の見直しや整備ができ、なによりもスタッフ間のつながりを強化できたことが最大の収穫だったように思う。

2. 能力向上

2011年度も個人能力向上を目的に、教育プログラムに基づいて部内勉強会を開催し、院内外の研修会等へも積極的に参加した。

また、各診療科の協力を得て、循環器科カンファレンス、外科カンファレンスを当放射線科検査室主催で行い、専門知識や技術の習熟に努め、診断価値の高い画像を提供することができた。

さらに健診事業への参画に伴い、検診胃透視の撮影技術、読影能力の向上にも努めた。

3. 健康フェスタ

3月に発生した東日本大震災に伴う原子力発電所の事故は、連日のように報道された。

メルtdown、シーベルト、ベクレル、被曝など、普段聞き慣れない言葉を耳にすることが多かったせいもあり、診療中や電話で放射線被曝についての質問を数多く受けた。

そうした地域住民の放射線への関心が高まっていることもあり、2011年10月30日に開催された第二回健康フェスタでは、放射線被曝に関するパネルの展示をおこなった。

実際に、放射線検査に対し不安を抱えている人が多いことを実感した。

しかし、パネルを使用して説明することで、危険性や放射線検査の必要性を理解する参加者が多く、健康フェスタを有意義に利用することができた。

4. 遠隔画像診断

例年通り済生会熊本病院画像診断センターの強力なバックアップの下に順調に行うことができた。また遠隔診断対象症例を通して画像診断力の向上に努めた。

2012年度は、更新に伴う64列CTの導入を控えている。

また検診事業の更なる充実をめざして、地域医療に貢献できるようスタッフ5名一丸となって努力していきたい。

マンモグラフィ件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	2010年度
件数	14	10	10	7	8	17	29	30	14	18	27	10	194	207